

### ③SPP 第 2 回会合関連イベント (SDGs in Action) の議事概要

#### Minutes of SDGs in Action of WUF10

#### Localizing the SDGs through PPP in Smart Cities

#### : Lessons Learned from Asia to the World

Date: 9 February 2020

Time: 16:45-17:45 on 9th Feb

Location: Hall 5 SDGs in Action

#### (モデレーター)

皆さん、「スマートシティにおける PPP を通じて SDGs を地域に根付かせる」のイベントを始める時間が来ました。私は国土交通省の国際戦略のディレクターの村川奏支です。イベントのはじめに、国土交通省の国土交通審議官栗田氏よりご挨拶いただきます。

#### 開会挨拶

#### (栗田卓也、セッション議長、国土交通省国土交通審議官、日本)

皆様、こんにちは。ご参加いただきありがとうございます。

日本政府の国土交通省国土交通審議官の栗田卓也です。第 10 回ワールドアーバンフォーラムでこのイベントを開催できることを大変うれしく思います。今日のスピーカー、参加者、WUF : UN-HABITAT. の主催者に感謝致します。このスマートシティイベントを開催できることは日本にとって大きな名誉です。

今、私たちは第 4 次産業革命に直面しています。AI やビッグデータといったイノベーションは私たちの日々の暮らしや都市計画に大きな変化をもたらしています。第 4 次産業革命後には人間を中心とした持続可能な社会となり、それを“Society 5.0”と呼んでいます。“Society 5.0”を実現するために、日本は公民間の強い協力により、将来において都市をもっと快適で便利なものとするための都市計画の新たな原則によりスマートシティを前進させています。そこで、私たちはいくつかの対策を講じています。例えば、MLIT は昨年「スマートシティモデルプロジェクト」として 15 の先導プロジェクトを選定し、この実験的プロジェクトの計画を実施への支援を通じて、その促進を図っています。

そうした日本の経験は世界の都市に貢献すると確信しています。それ故に、東南アジア地域に注目して、私たちは「ASEAN-日本 スマートシティネットワークハイレベル会合」を日本で開催しました。

本日のイベントで、私たちは先導的なスマートシティについて民間分野から優れたスピーカーをお迎えできたことを大変うれしく思っています。こうしたスピーカーは素晴らしい経験、計画、スマートシティをつくるための技術を紹介するでしょう。それにより、あなた方の国は都市におけるより良いソリューションを見つけるために役立つでしょう。

最後に、このイベントがスマートシティについて学ぶための良い機会となること及び日本が世界中の都市におけるスマートソリューションを開発するための助けになることを希望します。ご静聴いただきありがとうございます。

(モデレーター)

次に、国土交通省都市局の伊藤昌弘氏をお招きします。伊藤氏は海外での都市開発の促進に携わっています。そこで、伊藤氏は日本によるスマートシティ促進のための国際協力についてプレゼンテーションを行います。



### スピーチ：日本におけるスマートシティイニシアチブ

(伊藤昌弘、国土交通省都市局総務課国際室長)

#### 1. はじめに

- 今日は、日本のイニシアチブについて簡潔にご紹介します。ここは、SDGsへの貢献について話すのにふさわしい場です。更なる議論のために、私はSDGsへの日本の貢献についてお話しします。

#### 2. スマートシティとは何か？

- スマートシティには、異なった観点から多くの異なった定義があります。
- 3つの点を強調したい。最初の点は、技術指向から課題指向への変化です。日本のスマートシティでは、新技術そのものに固執するのではなく、解決すべき課題を解決することが非常に重要です。2点目は、個々の最適化から全体の最適化への動きです。課題は都市全体の観点から解決することができます。3点目は、異なった関係者間の協力です。特に、地方政府とビジネス。それにより、お互いの力を使うことができます。

#### 3. 日本におけるスマートシティイニシアチブ

- スマートシティのPPPプラットフォームの枠組みが昨年、日本でつくられました。スマートシティイニシアチブを加速するために民間セクター、研究機関、地方政府といった多くの主体が一緒になる必要があります。

#### 4. 日本の国際的イニシアチブ

- 国際社会との協力を紹介します。ASEAN諸国と日本はスマートシティネットワーク(ASCN)を2018年に設立しました。
- 昨年、日本はハイレベル会合を行い、ASEAN諸国全体でスマートシティを推進するための相互協力に関する更なる発展のための議論行いました。
- この会合は、スマートシティ分野における最初の海外へのアウトリーチとなりました。また、そこでは公民の参加がASEAN諸国と日本間の協力を促進するものとな

っています。

## 5. 結論

- 都市の諸課題を解決しSDG s の目標を実現するためのさらなる協力を期待します。
- プレゼンテーションの終わりに、このセッションが知識と経験を得る大きな機会となるよう希望します。

## スピーカーの紹介

(村川奏支、モデレーター、国土交通省総合政策局国際政策課国際建設産業戦略官、日本)

伊藤さん、ありがとうございました。

本日のスピーカーを紹介したいと思います。今日、私たちはいくつかのセクターから 6 人の講演者をお招きしております。

ジャマル・エル・ザリフ博士は、コンサルタント、大学講師、公共部門のアドバイザーとして 35 年以上の経験を持つエンジニアです。彼は中東諸国や米国でさまざまな輸送プロジェクトに取り組んできました。現在、彼はアブダビシティのアドバイザーです。

2 番目のスピーカーはマークダーダー氏です。彼は、カタルーニャ政府、地域および持続可能省の技術キャビネットの責任者です。彼はカタロニアのニューアーバンアジェンダに関する深い知識と経験を持っています。これは、環境、社会、経済の観点から持続可能な公共政策の枠組みです。

3 番目のスピーカーはティンティンチーさんで、ヤンゴン市開発局の都市計画のディレクターです。彼女は 27 年間エンジニアリング部門で働いています。彼女は ASEAN スマートシティネットワークでヤンゴン市のチーフスマートシティオフィサーとして指揮しています。これは、ASEAN 諸国のスマートシティの大きな国際的枠組みです。

4 番目のスピーカーは、日本の横浜市 of 西山玲子さんです。横浜市は日本で最大の都市の 1 つです。横浜市は現在、国際協力に取り組んでおり、アジアスマートシティカンファレンス (ASCC) などのスマートシティに関する大規模な会議を開催しています。彼女は国際局の課長です。

5 番目のスピーカーは、ファディジャブリ博士です。彼は、日本の国際的な建築都市デザイン会社である日建設計からです。50 か国の 250 の都市で非常に多くのプロジェクトを運営しています。日建設計の執行役員であり、日建設計のドバイ事務局長。彼は都市計画区域から 20 以上の都市で素晴らしい経験を持っています。

6 番目のスピーカーは池戸あいりさんです。彼女は日本のインデックスコンサルティング会社の社員です。インデックスコンサルティングは、日本の一般社団法人 PPP 推進機構 (OPPS) と統合されています。OPPS は PPP プロジェクトの形成に取り組んでいます。彼女はインデックスコンサルティングのコンサルタントおよびプロジェクトマネージャー、OPPS のコーディネーターを務めています。

このセッションの進め方をご紹介します。6 名のスピーカーからそれぞれ 5 分程度のプレゼンテーションをお願いします。次に、スピーカーに質問をしたいと思います。また、フロアからいくつか質問を受けます。従って、セッションは 5:45 に終了予定です。

プレゼンテーションを始めましょう。最初のスピーカー、ジャマル・エル・ザリフ博士よろしくお願いたします。

## パネルディスカッション

### プレゼンテーション1: アブダビ持続可能な公共照明戦略: NOOR プロジェクト、スマート LED 照明の民間提携による新調

(Dr. Jamal El Zarif, アブダビ市 都市基盤・資金部門 技術アドバイザー)

#### 1. 導入

- 皆さん、こんにちは。今日は PPP を通じて実施されている一つの取り組みについてお話ししたいと思います。私たちは NOOR アブダビプロジェクトを、アブダビ市の資金を使った最初の PPP プロジェクトであることから、画期的なイニシアチブ (Breakthrough Initiative) であると考えています。また、本プロジェクトはアラブ首長国連邦および GCC 諸国における初めての持続可能かつスマートな道路照明プロジェクトです。また、このプロジェクトは、今後のスマートシティのアプリケーションとして使用される、市全体の無線通信ネットワークを構築する予定です。

#### 2. NOOR アブダビプロジェクト

- このアブダビプロジェクトは、アブダビ島の中心地で実施されます。スマート照明システムを導入し、既存の 42、600 HPS/MH 照明器具を新しい LED 照明器具に交換します。そうすることで、消費電力を削減できます。また、交換したランプの安全な廃棄と、10 年以上の運用とメンテナンスも行われます。この工程の終了の段階で、請負業者は良好な運転状態になっている資金を再び市町村に返します。
- このプロジェクトは多くの準備段階を踏みました。我々は、経済及び金融のフィージビリティ・スタディ、設計及び技術要件、リスク管理、法律及び契約条件、費用の見積もり及び支払メカニズム、並びに制度及び組織運営の調整を実施しました。
- このプロジェクトはアブダビ持続可能な公共照明戦略を構成する 1 つのプロジェクトです。この戦略は、新しい設計アプローチ、新しい照明テクノロジー (LED)、持続可能性の実践、スマートアプリケーション、および運用要件の削減が導入されました。また、経済的、社会的、環境的メリットを評価するための経済・環境研究も実施しました。
- この図はスマート照明システムの構成を示しています。この設計により、嵐水センサー、かんがいセンサーのような IoT (Internet of Things) を含むスマートなアプリケーションを追加導入できる、都市全体の通信ネットワークを構築することができます。

#### 3. PPP アプローチ

- 本プロジェクトは公共部門から民間部門へ多くのリスクを移し、より高いパフォーマンスを確保する PPP アプローチにより実現されました。
- PPP プロジェクトの成果の一つは、従来の方法とは異なり、民間からの資金提供が挙げられます。調達方式は、財務モデルを用いて提案された設計事例 (proposed

design case) と既存事例 (existing case) との比較に基づきます。入札の評価は、財務評価の最も重要な要素である、技術的能力と節電を基本とします。プロジェクト管理に対する評価は、主要なパフォーマンス指標である KPI を通じて実施されます。例えば、運用とメンテナンスの段階では、資金はサービス提供者によって管理され、支払は KPI によって管理される他のサービスの利用可否と事前に合意された節電量を達成できた場合に行われます。今後予想される節約できた金額は、コンセッション終了期限までに 2 億ディルハムを超える見込みです。

#### 4. 期待される成果

- 財務上の節減に加え、環境への影響を評価しました。このプロジェクトは CO2 排出量とエネルギー消費量を 75%削減します。照明の強さを調整したので、私たちは光害を防ぐこともできます。また、メンテナンス作業によるトラフィックの中断が少なくなり、KPI の設定により、メンテナンス要求にたいする迅速な対応ができます。政府にとって、この事業は従来の事業より効果的で、地域住民の満足度を高めることができます。照明産業にとっては、市場進出に対するモチベーションを生み出すと思います。ありがとうございました。

## プレゼンテーション2: カタルーニャにおけるSDGsの実施におけるマルチガバナンス

(Mr. Marc Darder, Head of the Technical Cabinet, Ministry of Territory and Sustainability, Government of Catalonia Government of Catalonia)

### 1. はじめに

- このプレゼンテーションの準備をする時、私は2つのキーワードを考えていました。1つ目はスマートシティ、2つ目はPPPです。地域的な観点から言えば、カタルーニャではどちらの概念もうまく実現されていません。
- スマートシティとPPPは我々の政策アジェンダとしてあり、どちらも我々の都市を改善するために非常に有益であると強く信じています。スマートな都市の例をいくつかご紹介いたします。

### 2. スマートシティの例

- 既にご存じのように、都市について考えるのはとても合理的なプロセスであります。今まで私たちは物理的な場面を目にしてきたが、非常に重要な社会環境や移動性の問題に十分な注意を払いませんでした。2つ目の概念は経済についてです。異なる経済循環にいかに関与が影響を受けるかについてです。最近、市の人口は減少しています。経済も大変重要です。どんな変化でも私たちの都市を形作ることができます。カタルーニャでは、経済分野において観光業が強く、それによる都市の再編が進んでいます。都市にとって移動性は大きな問題です。流れや力学に関することです。つまり、移動は私たちの生態学に影響します。この日常ベースの動きを見ると、通勤による汚染が、カタルーニャ州の汚染の17%にも影響しています。

### 3. 結論

- フロー、移動性、経済的側面などに関するデータをすべて取得し、考え方を改善する必要があります。これは1859年のバルセロナ市の設計図ですが、この視点から変わらなければなりません。例えば、私たちは異なる層として都市を理解し、都市について話し、異なる観点から都市を分析する必要があります。私たちは異なる層を一度に把握する必要があります。これはバルセロナにおける観光の影響についてのものです。スマートシティやスマートテクノロジーは、SDGsを達成するために有用です。
- カタルーニャ州でPPPが強くないのは、主に我々の法律がかなり厳しいためであります。しかし、私たちは主要な戦略分野を定めるために、アジェンダを整理し始めました。私たちは、最良の都市を作るために、ガバナンスがどれほど重要か、一つの社会にとって民間セクターがどれほど重要かを意識しています。そのため、民間と政府が一体になる一つの体系を作るのです。そのアイデアは、将来のために最善の戦略を立てるためです。ありがとうございました。



### プレゼンテーション3: ヤンゴンにおけるスマートシティ戦略

(Ms. Tin Tin Kyi, Director, Urban Planning Division, Yangon City Development Committee (YCDC); ASEAN Smart City Network (ASCN))

#### 1. はじめに

- みなさん、今晚は。ヤンゴン都市開発委員会都市開発ディビジョンのディレクターの Tin Tin Kyi です。今日は、ヤンゴン市におけるスマートシティに関する活動についてお話しします。
- SDGs に関して ASEAN メンバー国は ASEAN スマートシティネットワークを設立しています。そこでは、スマートで持続可能という共通のゴールに向けて協力してネットワークをつくっています。私たちは目標を果たすために IT や先進的な技術を使い、ASEAN 諸国及び他の国々と一緒に活動しています。その目標は、情報が透明で公共への淀みなく流れるスマートシティをつくることです。

#### 2. ASEAN におけるスマートシティの枠組み

- これが ASEAN のスマートシティの枠組みです。6つの柱と3つの結果があります。ヤンゴンは3つの柱（市民及び社会、環境の向上、インフラ整備）を焦点となる分野として位置付けています。
- 昨年、私たちはタイでスマートシティのワークショップを行いました。スマートシティネットワークは2018年にシンガポールで始まりました。私はヤンゴンのスマートシティの責任者として2つのプロジェクトについて発表しました。一つはヤンゴンダウンタウンの保護。もう一つのプロジェクトはラインタヤ町の公共交通志向型の開発でした。このプロジェクトは我々の戦略的都市開発計画及びマスタープランに基づくものです。マスタープランでは、我々はいくつかの優先プロジェクトを位置付けています。優先プロジェクトの一つはダウンタウンの保全です。これはヤンゴン川沿いの地域で特に重要で、新たな開発に対してダウンタウンを管理・保全していくことが必要となっています。この地区には未来に残すべき建築物が多く存在していることが保全を必要とする理由です。二つ目のプロジェクトは公共交通志向型の開発です。我々のマスタープランでは9つの公共交通志向型の開発を位置付けていますが、これはその一つで、ヤンゴン市の入口に当たるところです。この地域には多くの雇用機会と多くの工業地域があります。そうしたわけで、ラインタヤ町のプロジェクトは重要なものとなっています。

#### 3. 多様な参加者の協力

- 同様に、私たちは市の他の部署や他の省庁とも一緒に活動していますし、国際機関とも協力しています。スマートシティを実現するために単に先進技術を使うのみならず、国際的な組織とも虚力しています。

- これはダウンタウンの最初のプロジェクトで、この地域で建築物の高さと密度を管理するための規制を定めました。2018年にダウンタウンに対するいくつかの規制を発表し、現在はいくつかのスマート駐車場の計画を始めています。新規の開発のためのガイドラインだけではなく、街路の改善も同様に必要です。別のプロジェクトはAnawrahta 道路沿線のヤンゴン総合病院の近くで行われています。2016年より前は、私たちはより多くの車のために道路を延伸してきました。しかし現在では、もっと人々について考えており、より歩行者に優しい道路、より多くの歩道を整備しています。単に歩道を修理するだけではなく、より多くの公共施設を整備しています。今はダウンタウンに一つの公園があり、これが唯一の緑地なので、より多くの緑地や公共施設がこの地域で必要です。そこで現在、非政府組織、コミュニティ、諸官庁がこのプロジェクトを実施するために活動しています。

#### 4. 電子政府

- スマートシティを実現するためには、良い政府が必要です。良い政府のために、私たちは市民が各種の証明をオンラインで得られる電子政府システム実施しています。

#### 5. ヤンゴンの建築許可システム

- これは、危険に関する自動システムで、世界銀行の Internal Finance Corporation (IFC)と協力したものです。人々は建築許可の状況、検査、完成証明をWeb上で見ることができます。

#### 6. One map YCDC

- 同様に、私たちはヤンゴン都市開発委員会の情報を一つの地図にしようと試みています。私たちは建築物に関して多くの情報を持っており、そうした情報を他の省庁などと共有する必要があります。近い将来、建築物、道路、公園・運動場、上下水道、ゾーニング・土地利用の情報を共有することができるようになるでしょう。

#### 7. 結論

- ヤンゴンでスマートシティを実現するために、私たちはインフラを整備し、公共賃貸住宅を建設し、既存のインフラやゾーニングの規制を改良しました。また、市民社会のためには、私たちは文化遺産の保護や良い政府、電子政府を推進しました。さらに、環境の向上のために、私たちは持続可能な環境と都市のレジリエンスを追求しています。ありがとうございました。



## プレゼンテーション 4: 都市の未来へ—スマート都市開発に向けた都市レベルの協力—

(西山玲子, 横浜市国際局国際技術協力担当課長)

### 1. はじめに

- こんにちは。横浜市国際局国際技術協力担当課長の西山玲子です。横浜市が取り組んでいる、持続可能なまちづくりのための公民連携による国際技術協力事業について、ご紹介します。

### 2. 横浜市の概要

- 横浜市の概要を紹介します。横浜市は、首都東京からわずか 30 分に位置し、約 375 万人の市民が生活する国内第二の都市です。
- 横浜市では、1950 年代からの数十年で急激に人口が増加しました。現在の新興国の人口増加率と比べても非常に高い水準での増加であり、これだけ急激に人口が増えたため、環境汚染やインフラ不足など、様々な都市課題が次から次へと起こりました。
- このような中、横浜市では、みなとみらい 21 地区の開発、地下鉄や高速道路の整備など、都市づくりの「6 大事業」と言われる重点プロジェクトを 1960 年代から企画、実行しました。また、このほかにも、下水道の普及や廃棄物対策など、様々な問題にも取り組んできました。横浜市では、このような急激な人口増加に伴う都市課題を市内企業や市民と協力して解決してきました。

### 3. Y-PORT 事業

- 横浜市では、これまで培ってきた都市づくりのノウハウや市内企業の有する環境技術などを生かし、アジア各国都市における国際技術協力やスマートシティ化への貢献を公民連携で行う Y-PORT 事業を 2011 年に立ち上げました。
- アジアにおけるスマートシティを考えると、廃棄物、排水、交通渋滞等の根幹的な都市課題の解決はいまだ極めて重要です。こうしたインフラ整備を進め効率のよい都市基盤づくりを進めることは、AI をはじめとした新たなテクノロジーの導入に先立ち必要不可欠です。

### 4. 海外展開

- 一般社団法人 YUSA は、海外インフラビジネスの機会の拡大と、新興国の都市課題解決に貢献するため、市内企業を中心となって 2017 年に設立された法人です。YUSA との連携により、Y-PORT の公民連携の取組がさらに活性化しています。
- フィリピンのセブでの Y-PORT 事業の例ですが、横浜市とセブ市の両都市による都市間連携に基づき、案件発掘から市内企業による事業化までの一貫した取組を行っています。JICA の実証事業等を経て、横浜の市内企業が現地に廃プラスチックのリサイクルシステム工場を建設しています。
- 次に、YUSA との連携による海外スマートシティ事業についてご紹介します。これは、アマタ社が所有する工業団地、アマタ・スマートシティ・チョンブリです。
- YUSA は、2018 年にタイの大手工業団地ディベロッパーであるアマタ社から、横浜をモデルに工業団地をスマートシティに転換していくコンサルティング業務を受注しました。これは、まさに横浜のまちづくりを担ってきた市内企業の技術力をまるごと輸出する、新たな取組です。

- 包括的なエリア開発を行う場面では、横浜市が培ってきた都市経営のノウハウを提供するという行政の役割に対する期待はますます大きくなると同時に、民間の先進的なスマート技術を踏まえた提案も求められるため、これまで以上に公民連携を推進し、横浜の都市としての総合力を発揮することが重要となります。

## 5. 結論

- また、Y-PORT 事業の一環として、横浜市は、毎年、アジア・スマートシティ会議を主催しています。次回のアジア・スマートシティ会議は、今年 10 月に開催を予定しています。是非、皆様のご参加をお待ちしています

## プレゼンテーション 5 : スマートシティ 日建設計の取り組み

(Dr. Fadi Jabri, Executive Officer, Nikken Sekkei Ltd)

### 1. はじめに

- 私は、これから「スマートシティ：アジアから世界への教訓」について語り、このトピックに対する日建設計のアプローチを説明し、海外での適用を実証します。

### 2. スマートシティ

- 私は、スマートシティは、プロジェクトまたは都市が直面する可能性のある特定の問題に対処するためのオーダーメイドのソリューションであると説明します。問題は、開発のレベル、変更と改革の意欲、住民のリソースと願望に応じて国ごとに異なることです。たとえば、資源が非常に少ない国としての日本にとって、スマートシティプロジェクトを支える 2 つの主要な動機があります。高度なテクノロジーを紹介します。
- 私のロシアでの経験では、安全とデジタル変換が、国、特に地方都市で最優先事項である一方、UAE では企業がサービスを高速化できるブロックチェーンアプリケーションの改善に重点を置いていることです。シンガポールでは、喫煙者の追跡にスマートアプリケーションが使用され、バルセロナでは、ゴミ箱にセンサーとワイヤレスリンクが装備されており、クリーナーがいっぱいになったときにリモートでアラートを出します。
- 「アプリケーションと可能性は無限です」と私は思います。そして、とりわけ、スマートシティプロジェクトを展開することにおける最も良い例の 1 つはシンガポールです。2012 年以降、市内の安全を確保するために 52,000 台を超える警察の監視カメラが設置されました。シンガポールは、安全性、スマートモビリティ、ヘルスケア、および行政サービスの世界的リーダーとも見なされています。

### 3. スマート文化&スマート社会を形成する方法

- 私の豊かな国際経験に基づいて、スマートシティ、スマートカルチャー、社会の創造と発展における官民の協力の重要性を強調します。この側面では、私はスマート化における日本の経験の例を挙げます。
- 「2009年、日本政府は、環境にやさしい素材と車を使用するよう市民を刺激するために、日本の市場で新しい環境にやさしい車の消費者の購入を促進するためのインセンティブを開始しました。たとえば、消費者がエコカーを購入した場合、それは補助金またはポイントの対象となり、商品、環境に優しいギフト券、公共交通機関のパスと交換したり、環境団体に寄付したりできます。日本の国土交通省は、住宅にエコポイント制度を導入し、リワードポイントを提供することにより、環境に優しい住宅の建設と改修を促進しました。それは、スマートな文化とスマートな社会を構築する方法の1つの例です。」

#### 4. 日建設計のスマートシティ事業

- 日建設計が日本で参加した成功したスマートシティプロジェクトの1つを示します。日本の千葉県で行われた柏の葉スマートシティプロジェクト。
- 「それはスマートシティの美しいモデルであり、環境的および技術的に革新的で、スマートで混合された使用、高品質のオープンスペースを強調する交通指向の開発です。最先端の環境およびエネルギー関連テクノロジーと、建物と環境、およびエリア全体のエネルギー消費を管理するための十分に考えられたオペレーティングセンターがあります。」
- 次にクラスノヤルスク市でのプレオブラジェンスキープロジェクトを紹介します。これはロシアの最初のスマートシティ住宅コミュニティであることが証明されています。「プレオブラジェンスキーの開発は現在、スマートシティのシステムの構築、実装、管理の次の段階にあります。これには、暖かい断熱材、熱回収システム、省エネウィンドウ、エレベーターの再生システム、自動ドア、ビデオインターコム、アクセス制御、ビデオ監視、ICT、火災およびセキュリティ警報システム、自動エネルギー計測システム監視センターなど」です。
- 講演を終えるにあたって、プレオブラジェンスキープロジェクトは、日建設計が日本のノウハウを海外に導入し、公共部門と民間部門およびアカデミーとの協力関係が成功したことを示す好例であり、ロシアで画期的なプロジェクトを形成するのに役立ちました。

プロジェクトに関するビデオへのリンク：

<https://www.youtube.com/watch?v=t2twUUNo3Ec>

## プレゼンテーション6: スマートシティにおける PPP を通じて SDGs を地域に根付かせる

(池戸あいり、PPP 推進支援機構事務局、インデックス コンサルティング コンサルタント)

### 1. はじめに

- マルハバ、こんにちは。インデックスコンサルティングの池戸あいりと申します。PPP推進支援機構、OPPSを代表してプレゼンテーションをさせていただきます。まず、我々がどのような活動や役割を担っているかについて説明します。

### 2. OPPSの活動紹介

- 既に皆様ご存じかと存じますが、PPPを推進するうえでの課題として、主に3つの課題が存在します。まず、PPPプロジェクトにはカントリーリスクを始めとした案件に含まれる様々なリスクが不明慮であることです。第二に、相手国政府との案件の合意形成を阻害する恐れがある問題、例えば相手国の慣習や政治体制等への対処が困難なことです。最後に、様々な利害関係を調整し、コンソーシアムを組成するためには、信頼できる第三者の存在が非常に重要でありながら煩雑な点でもあります。
- したがって、このような課題に対処するため、OPPSは、以下の4つの主要なサービスを通して、PPPプロジェクトの事業化までの支援を官民双方に実施しております；「事業方式のスクリーニング」、「コンソーシアム組成のコーディネーター」、「相手国政府との交渉と合意形成の支援」、「啓発活動と関係者の育成」

### 3. 事例研究：愛知モデル

- 次に、「愛知モデル」という事例をご紹介します。本プロジェクトは、PPP事業を通じてSDGs目標を適用する大変参考になる例です。
- プロジェクト概要を紹介します。本プロジェクトは愛知県（東京に次ぎGDP2位）で実施されているPPP事業であり、日本初かつ唯一の道路コンセッションモデルであります。全長は72.5km、コンセッション期間は30年間、運営権対価は1,377億円です。
- 愛知モデルと直接関連づけられるSDGs目標は主に4つあります。1つ目は「ゴール9:産業と技術革新の基盤をつくろう」です。「愛知モデル」には、「愛知アクセラレートフィールド」という3つの特徴を持つ革新的なプログラムが存在します。当プログラムは、①技術実証のために実際の道路を無償で利用することができ、②業界問わずどなたでもエントリーすることが可能です。さらに、③採用技術は実際の道路運営にも活用されております。
- 2つ目は「ゴール11:住み続けられるまちづくり」です。PPPとして「愛知モデル」が事業化される前は、すべてのドキュメントが紙媒体で保存されていましたが、現在はすべてデジタル媒体で管理されております。そのため、エンジニアや

従業員が現地調査を行いたいときは、iPadさえあれば現場の状況や過去の調査結果など、あらゆるデータベースにいつでもアクセスすることが可能です。

- 3つ目は「目標12:つくる責任つかう責任」です。本プロジェクトはSDGsの17の目標と169のターゲットのうち、「雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業に対して持続可能な開発がもたらす影響を測定する手法を開発・導入する」という目標12.bに直接的に関連しています。「愛知モデル」は、既存のパーキングエリア/サービスエリアを有名な世界的建築家、隈研吾氏の監修のもとリノベーションを行いました。また、これらパーキングエリア/サービスエリアを効率的に利用し、地方の文化を振興させることを目的に、定期的にイベントを開催しています。パーキングエリアのリニューアル後、駐車台数は従来と比較し50%も増加しております。
- 最後に「ゴール17:パートナーシップで目標を達成しよう」です。愛知県は、効果的な官・民・社会のパートナーシップを推進するため、近隣地方自治体や地方農家・生産者等との連携を常に図っています。また、サンタラン (Santa Run) というチャリティイベントも存在し、交通安全の啓蒙と地域活性化を目的に毎年開催されている人気イベントの一つです。プレゼンテーションは以上です。ありがとうございました。スクラン!

#### (モデレーター)

池戸さん、どうもありがとうございました。すべてのスピーチが終了しました。

すべての講演者に大きな拍手をお願いします。

いくつか質問を用意しましたが、もう時間が来ましたので、質問をパスします。

でも聴衆から、講演者に何か質問があれば、一つ質問を受けたいと思います。

このスペースは大変忙しいのでコミュニケーションが難しいと思いますので、このセッション終了後にお問い合わせください。これで、このセッションを終了します。

最後に栗田さんをお招きしたいと思います。

#### **閉会挨拶**

#### (栗田卓也、セッション議長、国土交通省国土交通審議官、日本)

このような影響力のあるプレゼンテーションについて、すべての講演者と参加者に感謝します。どうもありがとうございました。

このイベントが各国のスマートシティについて考える素晴らしい一歩になれば幸いです。

最後に、1つだけ触れておきます。今年の夏、東京でオリンピック/パラリンピックを開催します。日本に来ていただければ、先進のスマートシティを目にすることができるかと思います。

講演者と参加者に感謝し、このイベントに参加してイベントを実りのあるものにしたいと思います。 どうもありがとうございます。